

令和 7 年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ

令和 7 年 12 月

1 これまでの経緯

(1) 令和 6 年度までの経緯

伊勢志摩地域では、平成 17 年度から「少子化などの社会の変化が著しい中、高校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備する」ため、協議会を設置し、協議を続けてきました。

こうした中、「県立高等学校活性化計画（R4～R8）」（以下、「計画」という。）に基づき、令和 4 年度には、地域の中学生と保護者を対象としたアンケート調査の結果も踏まえながら検討を重ね、令和 5 年 2 月に協議会のまとめを策定しました。この中で、「令和 3 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和 19 年度には 18 学級から 21 学級に減少することが見込まれます。そのため、現在の 9 校 10 校舎の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」であることと、「令和 6 年度の生徒減については、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、さらに小規模化が想定される高校の学びを支えながら、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましい」との方向性が示され、その上で、「南伊勢高校については、令和 5 年度に南勢校舎の全生徒数が 10 人程度と見込まれ、今後も生徒増が見込めない状況であるため、令和 6 年度から南勢校舎を募集停止とすることはやむをえない。」との方向性をあわせて示しました。このことから、令和 6 年度には南勢校舎が募集停止となりましたが、南勢校舎に在籍する生徒と度会校舎に在籍する生徒との協働的な学びが一層進められました。

令和 5 年度の協議会においては、令和 4 年度にまとめた「現在の 9 校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」を踏まえ、引き続き、当地域の高等学校の学びと配置のあり方について協議し、「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」を策定しました。このまとめでは、令和 8 年度の 1 学級減、令和 10 年度の 3～4 学級減、令和 13～15 年度の 3～5 学級程度の学級減に対し、令和 10 年度の学級減への対応については令和 7 年度までに、令和 13～15 年度の学級減への対応については、令和 10 年度までに、伊勢志摩協議会としての方向性をまとめる必要性が示されました。また、その協議を進めるにあたっては、学校個別ではなく、当地域全体を見渡して、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の 2 つの視点が重要であるとされました。

令和 6 年度の協議会では、当地域の第 1 学年の総学級数が令和 7 年度入学生の 29 学級と比較し、15 年先の令和 21 年度には 14～17 学級程度減少し、12～15 学級程度となることが見込まれる中、引き続き、令和 4 年度に策定された計画や「令和 5 年度までの協議（今後の学びと配置のあり方について）」を踏まえ、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の視点で、15 年先の当地域の配置の姿をイメージしながら、その過程である令和 13 年度から 15 年度頃までに想定される断続的な学級減へのより具体の対応について、さらに協議を進めました。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月）より

これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

- これからの高等学校は、生徒の個性と能力を伸ばしつつ、予測困難な時代を豊かに生きるために必要な力を育み、持続可能な社会の創り手を育成することが求められている。そのため、生徒一人ひとりの興味・関心を高める教育に加え、協働的な学びや学校行事、部活動等を通じ、多様な考え方や価値観にふれ、互いに協力しあったり、切磋琢磨したりしながら、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- 平成 29 年度から地域の協力を得て取組を進めてきた 3 学級以下の小規模校活性化の検証結果、令和 2 年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する 15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で 1 学年 3 学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。これらについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとし、協議が必要となる地域に協議会がない場合は同様の場を設けるものとする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- 1 学年 3 学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい 県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- 入学者が 2 年連続して 20 人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とすることとする。
- 次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

【参考】「令和 4 年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ」（令和 5 年 2 月）より

今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方について（当協議会の考え方）

- これからの時代を生きる伊勢志摩地域の高校生にとって、自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力の育成とともに、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる多様な学び、学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び、地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び、それらの学びの質を高めるための一人ひとりへのきめ細かな関わりが必要です。現在、当地域における高校の 1 学年の総学級数は 32 学級ですが、令和 3 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和 19 年度には 18 学級から 21 学級に減少することが見込まれます。そのため、現在の 9 校 10 校舎の配置のままで当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要となります。
- 今後、令和 19 年度までの 15 年間における伊勢志摩地域の高校の配置と活性化方策については、この期間の生徒の減少状況をふまえ、当地域全体を見通した具体的な検討を進めるとともに、必要に応じて、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、中学生への事前の周知についても検討することとします。その過程にある令和 6 年度の生徒減については、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、さらに小規模化が想定される高校の学びを支えながら、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましいと考えます。

南伊勢高校については、令和 5 年度に南勢校舎の全生徒数が 10 人程度と見込まれ、今後も生徒増が見込めない状況であるため、令和 6 年度から南勢校舎を募集停止とすることはやむをえないと考えます。募集停止後は、引き続き南勢校舎に在籍する高校 2、3 年生の生徒が度会校舎の生徒と共に学ぶ機会を増やすとともに、南勢校舎を活用して通信制高校のサテライト教室を設け、学習支援の環境やこれまで培ってきた地域での学びを提供することについて、ニーズ調査や研究を進めていくことが望ましいと考えます。

【参考】「令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」の概要

- 現在の9校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しい
- 各学科・コースの学びの選択肢はできる限り維持することが望ましい
- 進学ニーズに応える普通科高校は、8学級規模が望ましい。やむを得ず学校規模を縮小する場合、6学級を下回らないよう一定規模を維持
- 部活動の活性化の観点から4学級以上が望ましい
- 1学年1学級となる3校の役割や教育実践を注視しながら、統合も含めた今後のあり方について議論
- 水産高校は引き続き活性化に取り組む（現計画期間）

【参考】令和6年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会～主な意見～

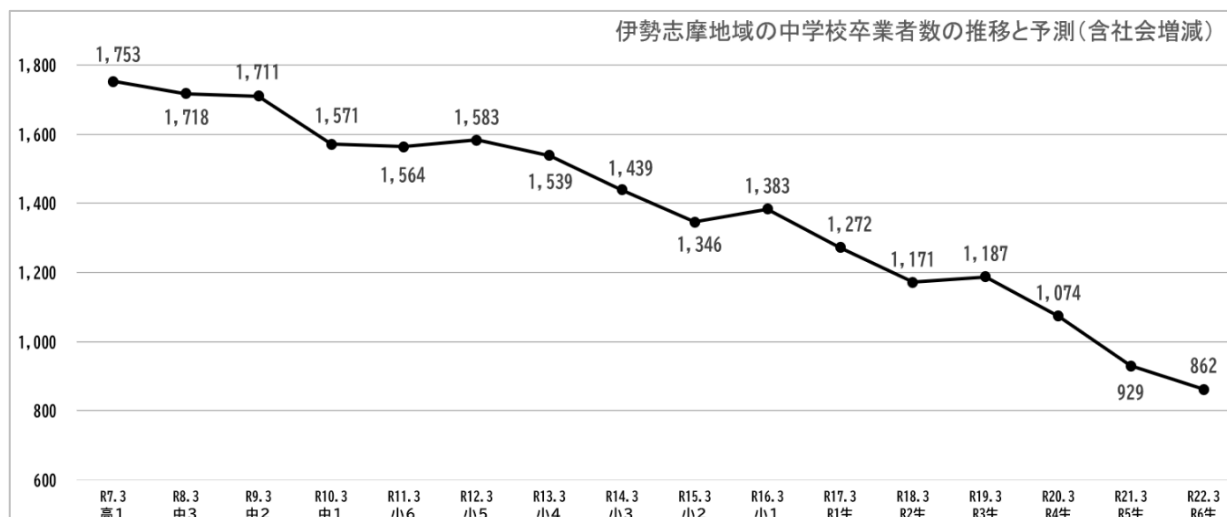
- 中学校卒業生数の減少を踏まえると、統廃合はやむを得ない
- 15年先を見据え、逆算して学級減への対応を検討
- 「進学ニーズに応える普通科高校は、6学級を下回らない」と「部活動の活性化の観点から4学級以上」の視点が大切
- 学びの選択肢の維持、多様な子どもたちのニーズに対応
- 現場の声を踏まえつつ、抜本的な再編も検討
- 通学時間・距離や校舎の老朽化への対応も考慮
- 県内唯一の学科を有する水産高校と総合学科の学び
- 高校の特色化・魅力化と情報発信
- 入試制度や学級編制基準、教員の配置基準の動向も考慮

2 当地域の県立高校を取り巻く状況

（1）中学校卒業生数の推移と予測

当地域の令和7年3月の中学校卒業生数は、前年度比26人増の1,753人であった。その後は、断続的に中学校卒業生数の減少が続き、令和10年3月には1,571人（前年度比140人減）、令和13年3月の1,539人（前年度比44人減）から令和15年3月の1,346人（前年度比93人）までの3年間で合計237人の減少が見込まれる。

さらに15年先の令和22年3月には862人となり、令和7年3月と比較すると半数以下になることが想定されている。



(2) 学級数の推移

平成 23 年度の総学級数と令和 8 年度の総学級数との比較から算出した割合をみると、地域の割合は県全体の割合より小さくなっており、減少幅が大きかったことが分かる。

学科別の割合では、普通科と総合学科と比較して職業系専門学科の減少幅は小さくなっており、県全体、地域とも専門的な学びの選択肢を維持する方向で推移してきた。

【伊勢志摩地域】

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R8/H23
普通科	21	21	21	21	20	20	20	20	19	17	16	16	16	14	14	13	61.9%
専門学科	18	19	18	18	17	17	17	16	15	15	14	14	15	14	14	14	77.8%
総合学科	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	25.0%
学級数合計	43	44	42	42	40	39	39	38	36	34	32	32	33	29	29	28	65.1%
前年度比		△1	▼2		▼2	▼1		▼1	▼2	▼2	▼2		△1	▼4		▼1	▼15

【県全体】

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R8/H23
普通科	200	201	201	204	193	195	189	188	177	173	164	166	159	156	150	145	72.5%
専門学科	97	99	98	99	98	96	96	95	93	91	86	87	88	87	87	87	89.7%
総合学科	27	27	25	24	24	24	23	23	21	21	21	21	20	20	21	20	74.1%
学級数合計	324	327	324	327	315	315	308	306	293	285	271	274	268	263	258	252	77.8%
前年度比		△3	▼3	△3	▼12		▼7	▼2	▼13	▼8	▼14	△3	▼6	▼5	▼5	▼6	▼72

(3) 中学校卒業者の進学状況

直近 2 ヶ年の伊勢志摩地域の公立中学校卒業者の進学状況をみると、52%以上の生徒が当地域の県立高校(全日制)に進学しており、地域の県立・私立・国立高専へは合わせて約 76%の生徒が進学している状況にある。一方で地域外の県立高校(全日制)へは、10%程度進学している状況があり、特に大紀町と玉城町で松阪地域の県立高校(全日制)へ進学する割合が高くなっている。学校別の状況では、南伊勢高校度会校舎は鳥羽市と志摩市及び大紀町からの進学者が、また、志摩高校と水産高校は玉城町と度会町、大紀町の 3 町からの進学者がほぼ 0 人の状況となっている。

区分 年度	卒業者数 ①②③ 合計	伊勢志摩地域①			地域外②				その他③
		全日制 県立	私立・ 国立高専	地域内 合計	松阪地域 全日制県立	津地域 全日制県立	その他の 県立・私立・ 高専・県外	地域外 合計	
R7.3 卒	1,753	927	415	1,342	126	21	127	274	137
		52.9%	23.7%	76.6%	7.2%	1.2%	7.3%	15.6%	7.8%
R6.3 卒	1,727	900	419	1,319	141	24	100	265	143
		52.1%	24.3%	76.4%	8.2%	1.4%	5.8%	15.3%	8.3%

※地域外：伊勢志摩地域の全日制的県立（9 校）と私立（2 校）と商船（1 校）以外的高校・高専への進学者数

※その他：特別支援・定時制・通信制・各種学校への進学及び就職等の数

※小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳と合計の割合が一致しない場合があります。

(4) 県立高校（全日制）卒業者の進路状況（R7.3 卒）

令和 7 年 3 月の進路状況を見ると、当地域の全日制県立高校から 1,099 人の生徒が卒業し、その半数を超える 557 人が四年制大学等へ進学し、続いて約 3 割となる 324 人の生徒が就職するといった状況となっている。

学科別では普通科・普通科系専門学科の宇治山田高校と伊勢高校の 9 割近くが四年制大学等へ進学、南伊勢高校と志摩高校は進学に加え、前者で 7 割以上、後者で 4 割以上が就職を選択しており高い割合を有している。また、職業系専門学科の高校では約 8 割が就職する伊勢工業高校をはじめ、4 校全体でも約半数が就職している。一方で、宇治山田商業高校の半数以上の生徒が四年制大学等

へ進学するなど、四年制大学等へも約4人に1人が進学している状況である。総合学科は、進学と就職で約1対2の割合となっている。

学科	区分	四年制大学	短大等	専門学校等	就職	その他	合計
普通科		424	20	35	47	23	549
		77.2%	3.6%	6.4%	8.6%	4.2%	100%
専門学科		132	29	94	255	3	513
		25.7%	5.7%	18.3%	49.7%	0.6%	100%
総合学科		1	4	8	22	2	37
		2.7%	10.8%	21.6%	59.5%	5.4%	100%
合 計		557	53	137	324	28	1,099
		50.7%	4.8%	12.5%	29.5%	2.5%	100%

(5) 県立高校（全日制）への通学状況など

令和7年度に当地域の県立高校(全日制)に通っている生徒(3学年合計)の通学費用を金額別にみると、不要が約5割と一番多く、8割を超える生徒が7,000円以内までとなっている。学校別にみても、概ね地域全体と類似の傾向を示しているが、鳥羽高校は5,000円を超える割合が、志摩高校においては、15,000円以内の区分で3番目に高い割合を示している。また、南伊勢高校と水産高校においては、9,000円を超える金額の割合が高くなっている。

通学時間別では、令和4年度に実施した地域の中学生と保護者へのアンケート調査で回答率が大きく下がる91分以上は約3%であり、対して90分以内が約97%、60分以内が約83%と概ね許容できる範囲に当てはまる状況となっている。

【通学費用】

(単位：%)

通学費用	宇治山田 (588人)	伊勢 (834人)	伊勢工業 (444人)	宇治山田商業 (516人)	明野 (466人)	南伊勢 度会校舎 (78人)	鳥羽 (136人)	志摩 (91人)	水産 (155人)	合計 (3308人)	積み上げ
不要	43.9	58.2	54.5	35.7	32.6	61.5	24.3	26.4	49.0	49.0	45.4
3000円以内	5.6	2.9	3.4	2.7	5.6	0.0	0.7	3.3	0.0	3.5	48.9
5000円以内	21.4	15.7	15.3	17.8	32.8	5.1	11.0	40.7	0.0	18.9	67.8
7000円以内	18.4	12.4	16.4	21.3	15.2	1.3	54.4	4.4	0.0	16.4	84.3
9000円以内	2.6	2.6	1.6	1.6	3.4	3.4	3.7	1.1	1.9	2.9	87.2
11000円以内	1.4	1.2	1.4	2.3	1.7	3.8	2.9	2.2	13.5	2.2	89.4
13000円以内	2.9	2.8	4.3	4.3	2.1	7.7	2.2	7.7	3.9	3.4	92.8
15000円以内	3.2	3.1	2.3	5.8	2.6	7.7	0.0	12.1	9.0	3.9	96.7
15001円以上	0.7	1.2	0.9	5.6	3.9	7.7	0.7	2.2	22.6	3.3	100

【通学時間】

(単位：%)

通学時間	宇治山田 (588人)	伊勢 (834人)	伊勢工業 (444人)	宇治山田商業 (516人)	明野 (466人)	南伊勢 度会校舎 (78人)	鳥羽 (136人)	志摩 (91人)	水産 (155人)	合計 (3308人)	積み上げ
15分以内	8.5	21.9	23.2	14.3	11.4	30.8	14.0	16.5	30.3	17.2	17.2
30分以内	33.7	31.7	33.6	33.6	33.6	29.5	16.2	33.0	23.2	30.6	47.8
45分以内	47.8	20.5	13.5	16.7	21.5	20.5	16.2	30.8	6.5	19.0	66.7
60分以内	15.1	12.0	12.0	17.8	15.9	14.1	14.1	16.5	21.3	16.1	82.8
90分以内	15.0	12.0	13.5	22.9	14.8	1.3	14.0	3.3	7.7	14.2	97.0
120分以内	4.4	1.8	1.8	2.3	1.7	3.8	0.0	0.0	5.2	2.4	99.4
121分以上	0.3	0.3	0.2	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	5.8	0.6	100

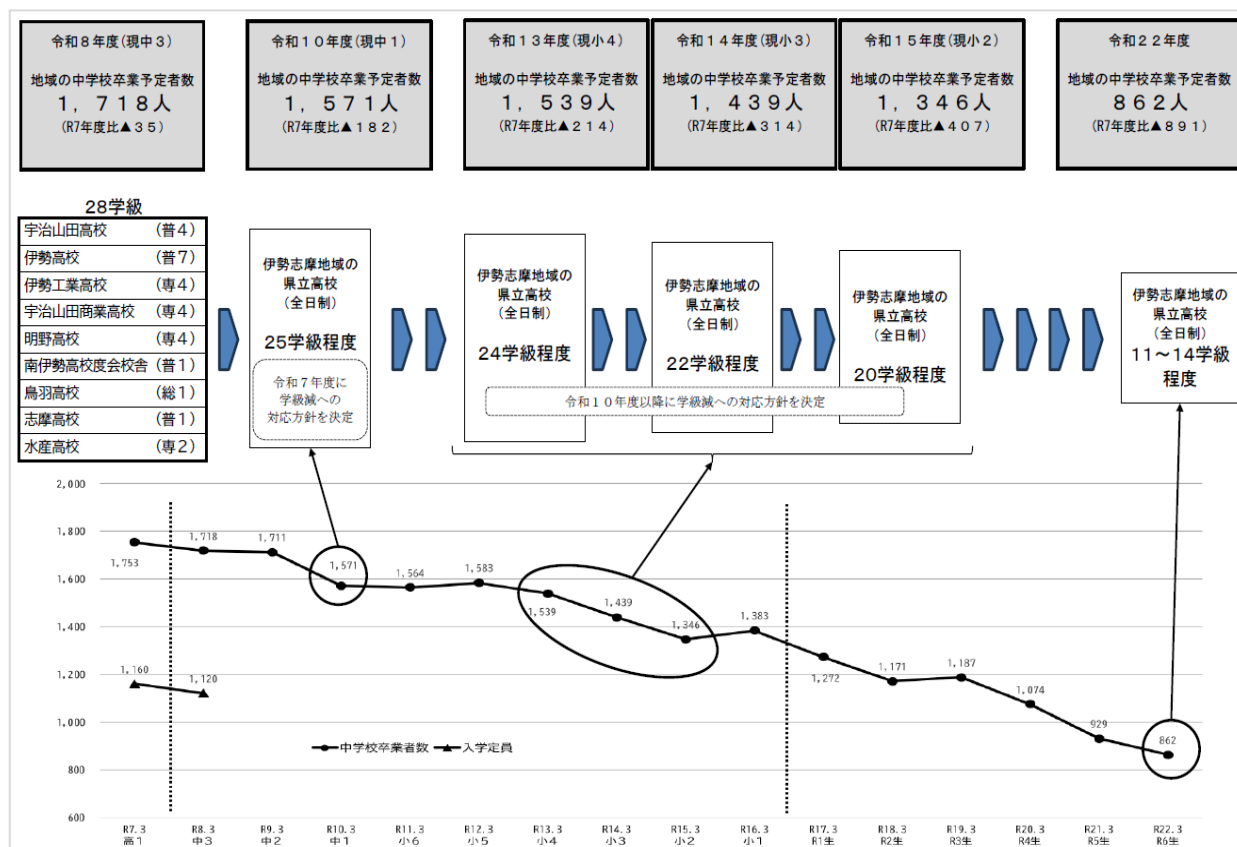
参考：令和4年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会 中学生と保護者へのアンケート調査結果より

中学生：あなたは、進学したい(または、進学するとしたら)高校までの通学時間(片道)は、どれくらいまでなら可能だと思いますか。
保護者：お子さんが進学したい高校までの通学時間(片道)は、どれくらいまでなら可能だと思いますか。

項目	生徒(%)	保護者(%)
30分以内	26.3	19.1
31～60分	52.7	62.9
61～90分	16.6	13.6
91～120分	2.8	1.9
121分以上	1.6	0.4

(6) 令和22年度までの当地域の県立高等学校(全日制)の総学級数の予測

当地域の第1学年の総学級数は、下図に示すとおり、15年先の令和22年度には11～14学級程度となると見込まれている。その過程にある令和10年度には25学級程度になり、令和13年度からの3年間で5学級減少し、令和15年度には20学級程度にまで減少することが想定される。



3 令和7年度の協議

(1) 第1回(令和7年7月28日)

令和10年度に想定される3学級程度の学級減への具体的な対応方針について、今年度中に方向性をまとめる必要があることから、これまでの協議を整理した「学びと配置のあり方の方向性」をふまえて、1学年あたりの総学級数が11～14学級程度となる「15年先の学びと配置の将来像(案)」について協議した。

(2) 第2回(令和7年9月29日)

これまでの協議をふまえて、15年先の学びと配置のあり方や令和10年度に想定される当地域の県立高校の学級減への具体的な対応を含む「令和7年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ」の策定に向け、協議した。

(3) 第3回(令和7年11月18日)

これまでの協議をふまえて、「令和7年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ」(最終案)について協議し、令和10年度入学者選抜(令和9年度実施)から南伊勢高校度会校舎と志摩高校の募集を停止し、県立高校(全日制)9校を7校に再編して、学びの充実を図るとの方向性を取りまとめた。

4 令和7年度の主な意見

(1) 学びのあり方について

①第1回（令和7年7月28日）

- 人間関係を構築する力を身につけるためには人数が多い方が望ましいと思う一方で、中学校で不登校だった生徒や学習でつまづいた生徒が小規模の高校に入学し、生き生きと学校生活を送っている姿を見ると、小規模の高校も必要ではないかと感じる。
- 地元で活躍する人材を育成する観点も含め、子どもたちの将来の夢の実現のためにも多様な選択肢があり、その中から自ら選び学べる環境があることが大切である。そのためにも地域の高校の存続は必要である。
- 地域の学びの選択肢をできる限り維持するために、総合学科の今後のあり方について検討していく必要がある。
- 子どもが進学や就職など多様な進路を自ら考え、選択していけるような新しい時代の学びにふさわしい学級編制のあり方も考えながら議論を進める必要がある。
- 職業高校において、ICTを活用してオンラインによる座学と対面による実習を組み合わせるなどすれば、通学時間に関する課題をカバーできるのではないか。
- 高校の特色化・魅力化を進めるうえでは、地域の子どもたちから選ばれるという観点に加え、地域の産業界から求められるという観点も必要ではないかと感じている。
- 雇用する側は、コミュニケーションがとれる人材、やる気のある人材を求めており、その2つをもっている生徒は就職してからの伸びも大きいと感じている。このことは学校教育においても重要な観点となるのではないか。
- これだけ広い地域で3校程度に集約するとなると、通学時間や費用の課題が大きくなると考えられる。また、どの業界も人材不足が大きな問題となっており、15年先はより厳しくなることが予測される。こうした中、地域学習の一環として、高校生と地域の事業者との交流会を実施するなど、産業界としても高校生が地域に根付くような活動により一層、注力していきたい。
- 県外の大学へ進学すると地元へ戻らない生徒も多い中、工業高校を卒業した生徒は地元に着してくれる貴重な人材として、企業側も年数をかけて大切に育成している。鳥羽商船高専にある学びとの重なりも意識して工業系の学びを配置する必要がある。一方、商業高校については、約6割が四年制大学へ進学していることから、今後普通科に集約されるのではないかと感じている。こうしたことから将来的に14学級で3校に集約されるというのは、現実的な姿だと理解している。

②第2回（令和7年9月29日）

- 15年先を見据えた県立高校のあり方を考える上で、私立高校側と何らかの協議は行われているのか。
- ⇒（事務局）公立高校と私立高校の翌年度の募集定員総数については、三重県公私立高等学校協議会で年度ごとに協議しているが、長期的な定員計画についての具体的な協議は行われていない。

- 現在の学級編制基準と教員配置基準であれば、15 年先には3校程度との結論となるのだろうが、全国的に生徒数が激減している状況と、現在の基準が合わなくなっていると感じる。現在行われている国の動きに注視していく必要があるのではないかな。
- 出生数の減少をふまえると、15 年先に3校程度となることは理解できるし、致し方ないことだと思う。一方で、人口増につながれば、地域の活性化にもつながるという観点から、地域の子どもたちだけでなく県外を含む他地域からの入学者が増えるような魅力ある高校づくりをしていくことも追記いただきたい。
- 3校程度への集約は、これ以上少なくなることはないという最低限の数字として理解している。今後、「学びと配置のあり方の方針」に記載された要件が3校程度で実現できるのかという議論が必要になる。
- 地域経済の観点から、地域に学校があることは移住や子育て世代のIターンUターンの促進にとって、大きな意味がある。そうしたことから、子どもの学びが一番であるが、子どもが生活する地域の視点を加えてほしい。
- 1学年1学級規模では、仮に人間関係がこじれてもクラス替えができず修復が難しい。加えて、学校行事や部活動など集団で活動することに制約が生じるなどの課題も多い。また、教員配置数も少なくなる中、どの学校にもある一定の校務を少人数で担う必要があり、働き方の観点からも、1学級規模は厳しい状況である。
- 志摩高校の存続を望むものの、今後の生徒数の減少を見通すと非常に厳しいのが現実である。苦渋の選択として募集停止とするのであれば、水産高校において普通科に準ずる学びを保障してもらいたい。
- 義務教育である小中学校は、地域に根差した教育の場として、小規模でもよいと考える。しかし、高校では社会とのつながりや交友関係を広げるためにも、少人数で地域に留まるのではなく、都市部に出ていくことも必要ではないかな。

③第3回（令和7年11月18日）

- 誰一人取り残さない教育の観点から、多人数の中で学ぶことが苦手な子どもたちへの支援が大切である。多様な子どもたちが充実した学校生活を送ることができるよう、子どもの学びのグランドデザインを策定し、安心して学べる高校の実現をめざしてほしい。
- 中学校現場では、2校が募集停止となれば、学び直しを希望する子どもたちは一体どこに進学したらよいのかとの不安が広がっている。15 年先を見据えた方向性としては理解できるが、今後も普通科でゆったりと学び直しができる県立高校があればよいと思う。
- 次期学習指導要領でも重視される、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていけるよう、きめ細かい教育の観点も方針に取り入れてはどうか。
- 来年度から、地域の3校が全学年で1学級規模となる。その高校では、教員数がさらに減少することとなり、子どもたちへの教育が十分行き届かなくなるのではないかと懸念している。また、学

校数を維持することで各校の小規模化が進むと、各校の魅力を高めることもできなくなる恐れがある。

- 令和4年度の協議会のまとめの際にも議論があった、伊勢志摩地域について学び、伊勢志摩地域全体で子どもたちを育てていこうという「伊勢志摩学」の方向性を改めて盛り込む必要がある。
- 小規模校を維持することによって、これまでの協議で大切にしてきた進学ニーズに応える高校や、多様な学びの選択肢が維持できなくなり、他地域への流出が加速するのではないかと危惧する。断腸の思いだが、募集停止を決断すべき時期に来ているのではないか。
- それぞれの高校が持っている役割を放棄するのではなく、集約された高校にその機能を引き継いでいくことが重要である。単に地域の学校を残してほしいというだけではなく、柔軟な学びの環境を整えるという発想で検討することが大切である。
- 社会に出た後も人間関係を構築する力は重要であり、コロナ禍で育った子どもたちには、オンラインを活用した学びだけでなく、多様な人や価値観の中で学ぶことが求められる。また、高校進学により長くなる通学時間を有効活用することも学びの機会の1つと捉えることができる。
- 私立高校授業料の実質無償化が進められる中で、改めて公立高校の役割を考えながら、再編の議論を進める必要がある。

(2) 配置のあり方について

①第1回（令和7年7月28日）

- 誰一人取り残さない教育の実現のためにも、一人ひとりのニーズにあった学校の配置が必要である。
- 統合は合理化のためではなく、子どもたちにとって魅力ある学校としていくために進めることが大切である。また、既存の高校のあり方をベースに考えるのではなく、例えば目指すべき教育が25人や30人であれば実現可能ではないかという視点で考えてみてもよいのではないか。
- 私立高校の授業料無償化による影響をふまえ、校舎の新設や改修などにより、県立高校の魅力を高める必要がある。特に工業科では、基本的な知識・技術が身につけていても、就職後に最新の設備の取扱いでつまづくこともあるため、施設・設備の更新が一刻も早く実現することを望んでいる。
- 協働的な学びと個別最適な学びを高校生に提供していくためには、校舎制を採用したり、複数校を教員が行き来して授業を行ったりするなど、フレキシブルに考えていくことが必要である。
- 15年先の配置については3校に絞るといった発想ではなく、市町を越えたエリアでどのような学びを提供していくのかを中心に置きながら、校舎制を採用したり、老朽化が進んでいるのであればどこかに集約して新築したりするなど、フレキシブルに考えていきたい。
- 令和22年度の将来像を3校程度と想定すると議論はしやすくなるが、3校に集約するという話が独り歩きすると、これまで大切にしてきた「伊勢市内の高等学校の再編」と「小規模校のあり方」についての議論が意味をなさなくなってしまうのではないか。

- 私立高校普通科の学級数を勘案しながら、今後、県立高校が 14 学級程度となったときに必要な学科が一体何なのかや、学科をどのように集約させていくのか等について、もっと高校現場の意見を聞きながら協議を進めていきたい。
- 配置を考える上では、通学時間や費用の観点から、通学する子どもだけでなく保護者の思いにも配慮する必要がある。
- 中学校では部活動の地域展開や生徒減により学校における活動が縮小している。こうした中、部活動は生徒のニーズが高く、輝く場ではあるものの、「部活動の活性化の観点から、1 学年 4 学級以上が望ましい」として高校の再編を考えるのは厳しいのではないか。
- 15 年先を見据えて、そこから逆算しながら、令和 10 年度やその先に想定される学級減への対応を考える手法は正しいが、その 15 年先の高校配置のグランドデザインを県が主導して打ち出していく必要があるのではないか。

②第 2 回（令和 7 年 9 月 29 日）

- 度会町では、長年にわたり南伊勢高校度会校舎の活性化や存続に向けた支援をしてきた。小規模校だからこそ生き生きと高校生活を送っている生徒も多いことから、公立の役割として採算性を求めずに、地域の核である学校を存続させてほしい。
- 「学びと配置のあり方の方針」については、今後の私立高校の授業料無償化の影響に加え、入学定員の動きについても影響があると考えられるので、方針の 1 つに追記してはどうか。また、私立高校の関係者を加え、協議会で議論していきたい。
- 「15 年先の学びと配置のイメージ」については、提示された 3 校程度とする案だけでは意見交換が難しいため、メリット・デメリットを提示したうえで、複数案による議論が必要ではないか。
- これまでの 15 年間は、再編を避けて学級減で対応してきたことで、県内の高校が一斉に小規模化してしまった。高校時代は、多様な経験や人との出会いにより心身を育てる重要な時期であることを考えると、もはや地域の高校の小規模化は限界に達している。対応を先延ばしにしてきた県教委の責任も大きい。
- 15 年先までのグランドデザインについては、新たなワーキンググループを設置するなどして議論し、学校の配置だけでなく、学習内容の変化や入試制度の改革なども含めた方向性を示していく必要があるのではないか。
- 南伊勢高校度会校舎と志摩高校が募集停止となった場合、南伊勢町の子どもたちにとって、普通科の選択肢に大きな影響がでることになる。志摩高校は旧南勢町から通いやすい位置にあるので、水産高校志摩校舎として残す案も検討してほしい。
- 専門高校からも大学等へ進学しており、大学進学ニーズに応える高校を普通科高校に限定して表記するのはどうかと考える。また、2 校の募集停止案は、これまで度会町が支援してきた経緯をふまえると、非常にづらい。

- 小規模校や総合学科のあり方については、どのように存続させるかという視点での議論が大切ではないか。また、地域で3校程度となると、伊勢市内に集約されることになり、通学が困難な子どもたちが増えるのではないかと危惧している。近い範囲に高校が存在することも子どもたちにとっては大事なことである。

③第3回（令和7年11月18日）

- 子どものニーズや学科の特色などを把握している高校現場の意向を勘案した上で、教育環境を整備すべきである。今後は、他府県の先進事例も参考にしながら議論できるとよい。
- 再編により、遠くの高校に通うことになる子どもたちへのサポートが重要であり、校舎制やサテライト施設とすることも手立てとなりうるのではないか。また、再編後の通学時間の変化なども追跡調査しながら検討を進める必要がある。
- 地域の経済団体としては、地域に高校があることの経済効果は大きく、なんとか募集停止とならない代替案を考えてもらいたい。
- 今後、高校でも35人学級編制などが実現し、協議会の方向性を見直しが必要となったときには、柔軟な枠組みで対応してもらいたい。
- 協議会の方向性として、「募集停止とし」や「整理統合する」といった表現はきつい印象を与える。協議会としては、もう少し柔らかい表現が望ましい。
- 地域の学校の存続を望む意見はあるが、小規模校の限界についても議論されてきた。学校の機能をどのように引き継ぐのかを議論するためにも、曖昧な方向性では何も進んでいかなくなるのではないか。また、募集停止となっても、その高校に在籍する生徒にとって魅力ある高校となるよう、全力でサポートしていくことが大事である。

5 今後の当地域の学びと配置のあり方について

(1) 学びと配置のあり方の方針

- 少子化の中にあっても、主役となる子どもたちを第一に考えながら、地域にどのような高校が必要なのか、前向きに検討する。
- 地域で活躍する人材育成や地域の活性化の観点から、地域の高校で、子どもたちが学びたいと思える特色・魅力ある教育環境を提供することが大事である。
- 大学等への進学や各専門分野の技術・技能の習得など、多様なニーズに対応できる教育環境を整える必要がある。
- 再編に関する議論にあたっては、引き続き「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の2つの観点で論じる必要がある。
- 子どもたちの選択肢の維持を図るにあたっては、地域にある国公立の学びの重なりや、役割についても勘案しながら、検討を進める必要がある。
- 学びと配置のあり方を検討する上で、私立高校の入学定員の状況や授業料無償化の影響、学級編制標準と教員の配置標準の見直し、入試制度改革の動きなどについて注視する必要がある。
- 引き続き県立高校が、「学びのセーフティーネット」としての役割を果たし、多様な背景をもつ子どもたちの選択肢となるよう、教育環境を整備する。
- 地域の子どもたちが地域で学べるよう、普通科、専門学科、総合学科の学科・コース・系列など多様な学びの選択肢をできるだけ維持する。
- 大学進学のニーズに応える高校は、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置のためには、少なくとも1学年あたり6学級あることが望ましい。
- 部活動の活性化の観点から、1学年あたり4学級以上あることが望ましい。
- 令和4年3月に策定された「県立高等学校活性化計画」で規定する「他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科」である水産高校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- 地域における学びの選択肢の維持のために、総合学科のあり方については、引き続き議論する必要がある。
- 再編を行うにあたっては、校舎制の採用や多様なニーズに応えられる校舎の新築・建替え、ICTの活用による授業変革など、柔軟かつ抜本的な試みも必要である。
- 同一の設置者が多様な課程、学科を有しているという県立高校の強みを生かし、異なる学科の併設や定時制や通信制などの課程の枠を越えた検討を進める必要がある。
- 再編するにあたっての学科や学校の組合せなど、協議会だけでは方向性を示すことが難しい内容もあるので、専門的な知見や高校現場の意見をふまえ検討する必要がある。
- 通学方法や通学時間など、通学に係る状況を考慮する。通学時間については、概ね90分以内、できれば60分以内であることが望ましい。
- 令和10年度の学級減への対応については、15年先までの過程であることを意識しつつ、令和13年度から令和15年度までの学級減への対応とのつながりを想定して方向性をとりまとめる。
- 地域の子どもたちや保護者が行きたい、行かせたいと思える特色・魅力ある教育が実現できるよう、15年先の学びと配置の将来像（グランドデザイン）を描く必要がある。

(2) 1 学年あたり 14 学級程度となることが想定される 15 年先(令和 22 年度)の学びと配置のイメージ

- 「学びと配置のあり方の方針」をふまえ、多様な背景をもつ子どもへの対応や、進学ニーズへの対応、各専門分野の技術・技能の習得などの学びの選択肢を確保しつつ、通学に係る課題や教育を取り巻く環境を勘案した上で、伊勢志摩地域全体で全日制課程の県立高校は、3 校程度に集約される。
- 上記のうちの 1 校は、県内唯一の学科を有する水産高校となる。

(3) 15 年先(令和 22 年度)を見据えた令和 10 年度に想定される 3 学級減への具体的対応

- 大学進学ニーズに応えるため、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置ができる 1 学年あたり 6 学級以上の普通科高校を、地域に 1 校は維持する。
- 現在ある専門的な学びを含む多様な学びの選択肢をできる限り維持する。
- 学校行事や部活動など、子どもたちが協働的に活動できるよう、可能な限り一定の学校規模を維持する。
- 総合学科の学びのあり方については、引き続き協議する。
- 多様な背景をもつ子どもたちが安心して学べる環境のあり方については、引き続き協議する。
- こうしたことから、令和 10 年度に南伊勢高校度会校舎と志摩高校の募集を停止することとし、全日制課程の県立高校 9 校を 7 校に再編して、これまで両校が担ってきた地域の学びを引き継ぎつつ、学びを整理統合することで、伊勢志摩地域全体の県立高校の学びの充実を図る。
- なお、伊勢志摩地域における多様な学びの提供を保障する観点から、15 年先に 3 校程度に集約されるうちの 1 校となる、県内唯一の学科を有する水産高校においても、進学や就職などの多様なニーズに応える普通科に準ずる学びを取り入れる必要がある。

(4) 今後の協議について

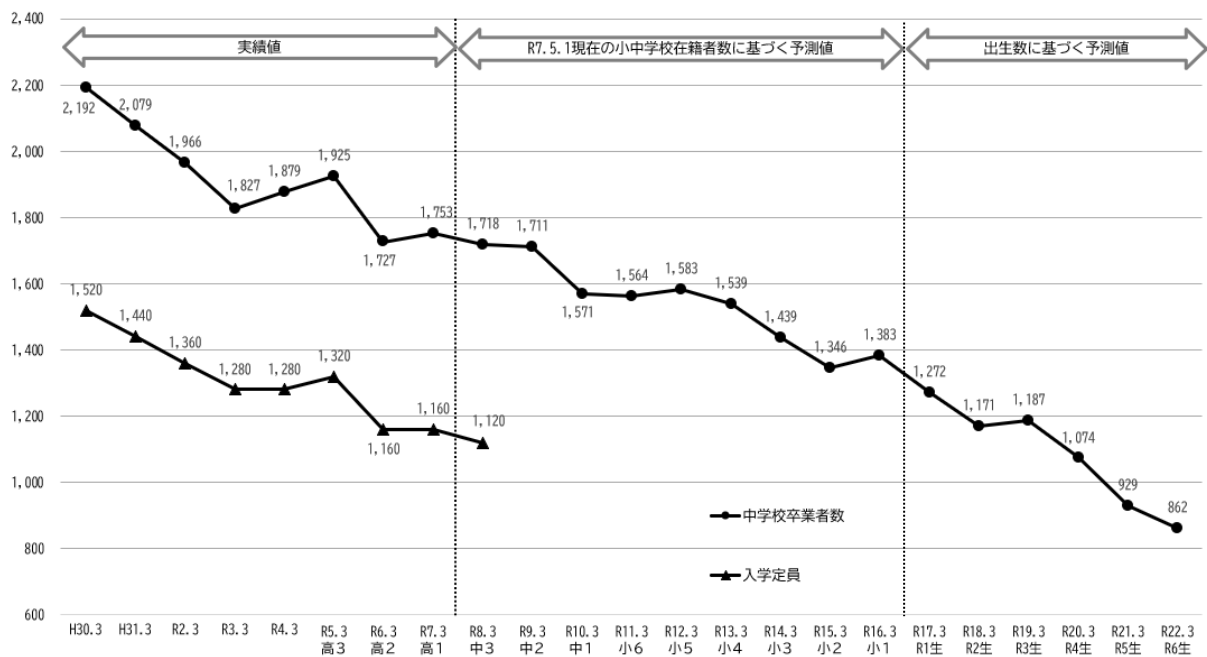
- 合わせて 5 学級減程度の減少が想定される令和 13～15 年度には、令和 10 年度の学級減への対応後の配置のままでは、当地域の高校として望ましいとされる学校規模を維持することが難しくなることから、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模のあり方」、「総合学科のあり方」の 3 つの視点を柱として引き続き議論を進め、次期県立高等学校活性化計画の策定に係る協議も注視しつつ、令和 9 年度を目途に方向性をとりまとめます。
- 「建物の集約化」に係る協議においては、多くの校舎で老朽化が進んでいることから、校舎の改築・新築を含む老朽化対策と多様なニーズに応えられる教育環境の提供を一体的にとらえ議論する必要があることから、長期的な視野をもって速やかに議論を進め、「学びの集約化」とともに、その方向性を示します。
- 高校は広域性(市町を越えて通学)を有することから、伊勢志摩を 1 つの地域としてとらえ、どの高校に進学しても地域のことを学び、地域と連携し、地域への愛着心が育まれる「伊勢志摩学」について、引き続き議論する必要があります。
- 15 年先の学びと配置の将来像(グランドデザイン)については、その過程にある学級減への対応の方針決定に係る根幹となることから、専門的な知見や高校現場の意見をふまえ、多面的な視点から教育環境への影響を検討しながら、より具体の姿が示されるよう考えをとりまとめ、早期に示す必要があります。

【参考資料：令和7年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会資料より抜粋】

○伊勢志摩地域の中学校卒業者数の推移と予測（含む社会増減）

		R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3	R 16.3
		卒業	卒業	卒業	卒業	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
伊勢市	卒業者数	1,082	1,126	975	1,029	996	1,019	958	891	942	899	864	782	863
	前年度対比		44	-151	54	-33	23	-61	-67	51	-43	-35	-82	81
	R7.3対比					-33	-10	-71	-138	-87	-130	-165	-247	-166
度会郡	卒業者数	315	337	311	321	297	293	272	276	273	288	244	259	231
	前年度対比		22	-26	10	-24	-4	-21	4	-3	15	-44	15	-28
	R7.3対比					-24	-28	-49	-45	-48	-33	-77	-62	-90
鳥羽市	卒業者数	143	122	106	119	109	98	99	110	88	101	85	94	86
	前年度対比		-21	-16	13	-10	-11	1	11	-22	13	-16	9	-8
	R7.3対比					-10	-21	-20	-9	-31	-18	-34	-25	-33
志摩市	卒業者数	339	340	335	284	316	301	242	287	280	251	246	211	203
	前年度対比		1	-5	-51	32	-15	-59	45	-7	-29	-5	-35	-8
	R7.3対比					32	17	-42	3	-4	-33	-38	-73	-81
小計	卒業者数	1,879	1,925	1,727	1,753	1,718	1,711	1,571	1,564	1,583	1,539	1,439	1,346	1,383
	前年度対比		46	-198	26	-35	-7	-140	-7	19	-44	-100	-93	37
	R7.3対比					-35	-42	-182	-189	-170	-214	-314	-407	-370
県内合計	卒業者数	16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	15,261	14,807	14,345	14,044	14,030	13,399	12,753	12,408
	前年度対比		-189	-164	-173	-201	-256	-454	-462	-301	-14	-631	-646	-345
	R7.3対比					-201	-457	-911	-1,373	-1,674	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310

○伊勢志摩地域の中学校卒業者数と県立高等学校入学定員の推移



【伊勢志摩地域の出生数】

	H28年度生 現小3	H29年度生 現小2	H30年度生 現小1	R元年度生 5～6歳	R2年度生 4～5歳	R3年度生 3～4歳	R4年度生 2～3歳	R5年度生 1～2歳	R6年度生 0～1歳
伊勢市	864	814	883	811	761	744	705	601	544
度会郡	241	230	206	188	180	200	177	154	134
鳥羽市	109	94	98	83	65	88	56	57	42
志摩市	240	227	209	205	177	167	145	126	150
合計	1,454	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199	1,083	938	870

○県立高等学校（全日制）の学級数の状況

（１）平成23年度

地域名	入学定員 (H23.3年募集定員)	40人ベースの学級数									学校数
		1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	
桑名	1,400 (2,229)				桑名工業(工)		桑名北(普)		桑名西(普) いなべ総合学園(総)	桑名(普・看・理)	5校 (35学級)
四日市	3,080 (3,762)				孤野(普)		朝明(普) 四日市農芸 (農・家) 四日市中央工業 (工)	四日市四郷(普) 四日市商業(商)	川越(普・外) 四日市南(普) 四日市西(普) 四日市工業(工)	四日市(普)	11校 (77学級)
鈴鹿亀山	1,440 (2,456)				飯野(外・他)	石業師(普)	稲生(普・体) 亀山(普・家・情)	白子(普・家)	神戸(普・理)		6校 (36学級)
津	2,160 (2,987)			白山(普・商)		津工業(工)	久居農林(農・家)	津商業(商) 久居(普)	津東(普)	津(普) 津西(普・他)	8校 (54学級)
松阪	1,200 (1,962)		飯南(総) 鼎学園(総)			松阪商業(商・他)	松阪工業(工)	相可(普・農・家)	松阪(普・理)		6校 (30学級)
伊勢志摩	1,705 (2,704)			南伊勢(普) 志摩(普) 水産(水)	鳥羽(総)	伊勢工業(工) 宇治山田商業(商) 明野(農・家・福)		宇治山田(普)	伊勢(普)		9校 (43学級)
伊賀	1,320 (1,742)		あけぼの学園(総)			名張(総)	名張桔梗丘(普) 名張西(普・工・外)	上野(普・理) 伊賀白鳳 (農・工・商・福)			6校 (33学級)
東紀州	360 (447)			紀南(普)			木本(普・総)	尾鷲(普・工・商)			3校 (16学級)
学校数		0校 (0学級)	3校 (6学級)	5校 (15学級)	4校 (16学級)	7校 (35学級)	11校 (66学級)	10校 (70学級)	10校 (80学級)	4校 (36学級)	54校 (324学級)

【備考】

- 学科名略称：(普)普通科(普通科におけるコース制を含む)、専門学科[(農)農業、(工)工業、(商)商業、(水)水産、(家)家庭、(看)看護、(情)情報、(福)福祉、(理)理数、(体)体育、(外)外国語、(他)その他専門学科(国際科学、国際教養、応用デザイン)]、(総)総合学科
- 校舎制の南伊勢高校は、南勢校舎2学級・度会校舎1学級となっています。
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により水産高校は3学級105人として募集しています。



（２）令和 8 年度

地域名	入学定員 (R8.3年募集定員)	40人ベースの学級数									学校数
		1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	
桑名	1,160 (1,924)				桑名北(普) 桑名工業(工)		桑名西(普)	いなべ総合学園(総)	桑名(普・看・理)		5校 (29学級)
四日市	2,480 (3,440)			朝明(普・福)	四日市四郷(普) 孤野(普)	四日市西(普) 四日市農芸 (農・家) 四日市中央工業 (工)	四日市商業(商)	川越(普・他) 四日市工業(工)	四日市(普) 四日市南(普)		11校 (62学級)
鈴鹿亀山	1,120 (2,258)		石業師(普)		稲生(普・体) 飯野(外・他)	亀山(普・家・情)	白子(普・家)	神戸(普・理)			6校 (28学級)
津	1,840 (2,552)		白山(普・商)		久居(普)		津東(普) 津工業(工) 津商業(商) 久居農林(農・家)		津(普) 津西(普・他)		8校 (46学級)
松阪	1,000 (1,810)		飯南(総) 鼎学園(総)		松阪商業(商)	松阪工業(工) 相可(普・農・家)		松阪(普・理)			6校 (25学級)
伊勢志摩	1,120 (1,718)	南伊勢 度会校舎(普) 鳥羽(総) 志摩(普)	水産(水)		宇治山田(普) 伊勢工業(工) 宇治山田商業 (商) 明野(農・家・福)			伊勢(普)			9校 (28学級)
伊賀	920 (1,368)	あけぼの学園(総)				名張青峰(普) 名張(総)	上野(普・理) 伊賀白鳳 (農・工・商・福)				5校 (23学級)
東紀州	360 (447)				尾鷲(普・工・商)	熊野青藍 木本校舎(普・総) 紀南校舎(総)					2校 (9学級)
学校数		4校 (4学級)	5校 (10学級)	1校 (3学級)	13校 (52学級)	9校 (45学級)	9校 (54学級)	6校 (42学級)	5校 (40学級)	0校 (0学級)	52校 (250学級)

【備考】

- 学科名略称：(普)普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科[(農)農業、(工)工業、(商)商業、(水)水産、(家)家庭、(看)看護、(情)情報、(福)福祉、(理)理数、(体)体育、(外)外国語、(他)その他専門学科(国際探究、国際科学、応用デザイン)]、(総)総合学科
- 校舎制の熊野青藍高校は、木本校舎4学級・紀南校舎1学級となっています。
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により伊賀白鳳高校は7学級240人、尾鷲高校は5学級160人として募集しています。

○学級数の推移（平成23年度～令和8年度）

（１）伊勢志摩地域の学級数の推移

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R8/H23
校名・学科	普通科・普通科系専門学科	21	21	21	21	20	20	20	20	19	17	16	16	16	14	14	13	61.9%
	職業系専門学科	18	19	18	18	17	17	17	16	15	15	14	14	15	14	14	14	77.8%
総合学科		4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	25.0%
学級数合計		43	44	42	42	40	39	39	38	36	34	32	32	33	29	29	28	65.1%
前年度比（増減）			△1	▼2		▼2	▼1		▼1	▼2	▼2	▼2		△1	▼4		▼1	▼15
学校別詳細	明野（農業・家庭・福祉）	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	80.0%
	宇治山田（普通）	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	4	57.1%
	伊勢（普通・その他）	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	87.5%
	宇治山田商業（商業）	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5	4	4	4	80.0%
	伊勢工業（工業）	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	80.0%
	南伊勢（普通）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	33.3%
	鳥羽（総合）	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	25.0%
	志摩（普通）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	33.3%
	水産（水産）	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	66.7%

（２）三重県の学級数の推移

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R8/H23
学科（地域の高校）	普通科・普通科系専門学科	200	201	201	204	193	195	189	188	177	173	164	166	159	156	150	145	72.5%
	職業系専門学科	97	99	98	99	98	96	96	95	93	91	86	87	88	87	87	87	89.7%
総合学科		27	27	25	24	24	24	23	23	23	21	21	21	21	20	21	20	74.1%
学級数合計		324	327	324	327	315	315	308	306	293	285	271	274	268	263	258	252	77.8%
前年度比（増減）			△3	▼3	△3	▼12		▼7	▼2	▼13	▼8	▼14	△3	▼6	▼5	▼5	▼6	▼72
学科別詳細	普通（宇治山田・伊勢・南伊勢・志摩）	182	183	183	186	175	178	172	171	160	156	147	150	144	141	135	130	71.4%
	農業（明野）	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	13	13	13	13	13	13	86.7%
	工業（伊勢工業）	39	40	40	40	40	39	39	38	38	37	35	35	35	35	35	35	89.7%
	商業（宇治山田商業）	27	28	26	27	27	26	26	26	25	24	22	23	24	23	23	23	85.2%
	水産（水産）	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	66.7%
	家庭（明野）	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	100%
	看護	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	100%
	情報	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	100%
	福祉（明野）	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	150%
	理数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	116.7%
	体育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	50.0%
	英語	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	40.0%
	その他（伊勢）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5	5	100%
	総合学科（鳥羽）	27	27	25	24	24	24	23	23	23	21	21	21	21	20	21	20	74.1%

○市町別の中学校卒業生進学先の状況

伊勢市の状況

	卒業 者数	伊勢志摩地域										私立高校・国立高専				地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計								
R7.3卒	1,029	92	187	87	74	79	10	1	2	12	544	152	79	32	263	807	51	12	3	75	141	81	1,029
		519						3		1.2%	52.9%	231		3.1%	25.6%	78.4%	5.0%	1.2%	0.3%	7.3%	13.7%	7.9%	100%
		50.4%					1.0%	0.3%				129		108									
R6.3卒	975	81	174	63	76	70	12	0	3	2	481	129	108	34	271	752	73	14	8	40	135	88	975
		464					1.2%	0.3%	0.2%	49.3%	24.3%	237		3.5%	27.8%	77.1%	7.5%	1.4%	0.8%	4.1%	13.8%	9.0%	100%
		47.6%										129		108									

鳥羽市の状況

	卒業 者数	伊勢志摩地域										私立高校・国立高専				地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計								
R7.3卒	119	6	8	14	6	16	12	2	3	0	67	15	10	11	36	103	4	0	0	1	5	11	119
		50					10.1%	4.2%		0%	56.3%	25		9.2%	30.3%	86.6%	3.4%	0%	0%	0.8%	4.2%	9.2%	100%
		42.0%										7		5									
R6.3卒	106	13	10	11	6	7	14	2	2	0	65	12	5	9	21	86	3	1	3	7	14	6	106
		47					13.2%	3.8%		0%	61.3%	12		5									
		44.3%										12		5									
		44.3%										12		5									

志摩市の状況

	卒業 者数	伊勢志摩地域																			地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		県立高校					私立高校・国立高専				私立高校・国立高専																	
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計													
R7.3卒	284	28	33	19	31	13	5 1.8%	22 17.6%	28	0 0%	179 63.0%	29	15	18	62	241	9	1	2	13	25	18	284					
		124 43.7%															44 15.5%											
R6.3卒	335	38	42	20	18	20	2 0.6%	27 20.3%	41	0 0%	208 62.1%	37	25	16	78	286	7	2	5	13	27	22	335					
		138 41.2%															62 18.5%											

玉城町の状況

	卒業 者数	伊勢志摩地域										私立高校・国立高専				地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計								
R7.3卒	157	19	13	10	8	6	2	0	0	9	67	7	12	5	24	91	28	7	1	17	53	13	157
		56					1.3%	0%		5.7%	42.7%	19		3.2%	15.3%	58.0%	17.8%	4.5%	0.6%	10.8%	33.8%	8.3%	100%
		35.7%										12		9									
R6.3卒	145	19	8	16	9	12	2	0	1	5	72	7	9	2	18	90	27	6	1	7	41	14	145
		64					1.4%	0.7%		3.4%	49.7%	16		11.0%	12.4%	62.1%	18.6%	4.1%	0.7%	4.8%	28.3%	9.7%	100%
		44.1%										16		11.0%	12.4%	62.1%	18.6%	4.1%	0.7%	4.8%	28.3%	9.7%	100%

度会町の状況

	卒業 者数	伊勢志摩地域										私立高校・国立高専				地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計								
R7.3卒	69	4	15	5	9	2	0	0	0	7	42	6	5	3	14	56	6	0	0	2	8	5	69
		35					0%	0%		10.1%	60.9%	11		4.3%	20.3%	81.2%	8.7%	0%	0%	2.9%	11.6%	7.2%	100%
		50.7%										8		2									
R6.3卒	68	2	10	8	8	6	0	0	0	4	38	8	2	2	12	50	5	0	0	5	10	8	68
		34					0%	0%		5.9%	55.9%	10		2.9%	17.6%	73.5%	7.4%	0%	0%	7.4%	14.7%	11.8%	100%
		50.0%										10		2.9%	17.6%	73.5%	7.4%	0%	0%	7.4%	14.7%	11.8%	100%

南伊勢町の状況

	卒業 者数	伊勢志摩地域										私立高校・国立高専				地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計								
R7.3卒	43	3	2	9	2	3	0	0	1	3	23	7	1	1	9	32	4	0	1	4	9	2	43
		19					0%	1		7.0%	53.5%	8		2.3%	20.9%	74.4%	9.3%	0%	2.3%	9.3%	20.9%	4.7%	100%
		44.2%										8		4									
R6.3卒	52	4	5	0	7	8	0	4	3	1	32	8	4	0	12	44	0	1	3	2	6	2	52
		24					0%	7		1.9%	62%	12		0%	23.1%	84.6%	0%	1.9%	5.8%	3.8%	11.5%	3.8%	100%
		46.2%										12		0%	23.1%	84.6%	0%	1.9%	5.8%	3.8%	11.5%	3.8%	100%

大紀町

	卒業 者数	伊勢志摩地域										私立高校・国立高専				地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 ①+②+③
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計								
R7.3卒	52	2	1	1	0	0	0	0	0	1	5	0	6	1	7	12	24	1	1	7	33	7	52
		4						0	0		1.9%	9.6%	6	1.9%	13.5%	23.1%	46.2%	1.9%	1.9%	13.5%	63.5%	13.5%	100%
R6.3卒	46	2	0	1	0	1	0	0	0	0	4	2	5	0	7	11	26	0	1	5	32	3	46
		4						0	0		0%	8.7%	7	0	15.2%	23.9%	56.5%	0	2.2%	10.9%	69.6%	6.5%	100%
		8.7%										7											

○伊勢志摩地域の県立高校(全日制)卒業生の進路状況（令和7年3月卒）

学校名	学科	四年制大学	短大等	専門学校等	就職	その他	卒業者数
明野	農業 家庭福祉	24	16	48	66	3	157
		15.3%	10.2%	30.6%	42.0%	1.9%	100%
宇治山田	普通	170	8	16	1	2	197
		86.3%	4.1%	8.1%	0.5%	1.0%	100%
伊勢	普通	242	8	3	2	19	274
		88.3%	2.9%	1.1%	0.7%	6.9%	100%
宇治山田商	商業	89	4	22	43	0	158
		56.3%	2.5%	13.9%	27.2%	0%	100%
伊勢工	工業	15	0	16	118	0	149
		10.1%	0%	10.7%	79.2%	0%	100%
南伊勢 (度会・南勢)	普通	3	1	3	24	0	31
		9.7%	3.2%	9.7%	77.4%	0%	100%
鳥羽	総合	1	4	8	22	2	37
		2.7%	10.8%	21.6%	59.5%	5.4%	100%
志摩	普通	9	3	13	20	2	47
		19.1%	6.4%	27.7%	42.6%	4.3%	100%
水産	水産	4	9	8	28	0	49
		8.2%	18.4%	16.3%	57.1%	0%	100%

普通科計	424	20	35	47	23	549
	77.2%	3.6%	6.4%	8.6%	4.2%	100%
専門学科計	132	29	94	255	3	513
	25.7%	5.7%	18.3%	49.7%	0.6%	100%
総合学科計	1	4	8	22	2	37
	2.7%	10.8%	21.6%	59.5%	5.4%	100%
合計	557	53	137	324	28	1,099
	50.7%	4.8%	12.5%	29.5%	2.5%	100%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大等」は専攻科、高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

○伊勢志摩地域の県立高校(全日制)への通学状況（令和7年度）

（1）通学方法別生徒数と割合

R7.5.1 学校基本調査

学校名		宇治山田	伊勢	伊勢工業	宇治山田 商業	明野	南伊勢 度会校舎	鳥羽	志摩	水産	合計
通学方法											
	徒歩のみ	28	10	7	4	8	5	13	10	14	99
		4.8%	1.2%	1.6%	0.8%	1.7%	6.4%	9.6%	11.0%	9.0%	3.0%
	自転車のみ	222	473	229	180	134	28	15	3	53	1,337
		37.8%	56.7%	51.6%	34.9%	28.8%	35.9%	11.0%	3.3%	34.2%	40.4%
	JRのみ	47	2	8	28	0	0	1	0	0	86
		8.0%	0.2%	1.8%	5.4%	0%	0%	0.7%	0%	0%	2.6%
	私鉄のみ	149	27	29	0	127	0	42	42	0	416
		25.3%	3.2%	6.5%	0%	27.3%	0%	30.9%	46.2%	0%	12.6%
	バスのみ	34	36	10	49	0	24	5	22	48	228
		5.8%	4.3%	2.3%	9.5%	0%	30.8%	3.7%	24.2%	31.0%	6.9%
	船のみ	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3
		0%	0.1%	0%	0%	0%	0%	0.7%	0%	0.6%	0.1%
JRと	私鉄	1	0	0	20	22	0	9	0	0	52
		0.2%	0%	0%	3.9%	4.7%	0%	6.6%	0%	0%	1.6%
	バス	1	6	0	1	0	1	0	0	0	9
		0.2%	0.7%	0%	0.2%	0%	1.3%	0%	0%	0%	0.3%
	自転車	20	53	19	60	2	0	0	0	0	154
		3.4%	6.4%	4.3%	11.6%	0.4%	0%	0%	0%	0%	4.7%
私鉄と	バス	10	13	3	10	38	1	0	2	11	88
		1.7%	1.6%	0.7%	1.9%	8.2%	1.3%	0%	2.2%	7.1%	2.7%
	船	1	0	0	0	1	0	0	1	5	8
		0.2%	0%	0%	0%	0.2%	0%	0%	1.1%	3.2%	0.2%
	自転車	70	182	112	139	123	0	38	0	0	664
		11.9%	21.8%	25.2%	26.9%	26.4%	0%	27.9%	0%	0%	20.1%
バスと	船	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	2.2%	0%	0%	0.1%
	自転車	3	22	24	8	0	4	0	0	8	69
		0.5%	2.6%	5.4%	1.6%	0%	5.1%	0%	0%	5.2%	2.1%
船と	自転車	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
		0%	0.2%	0%	0%	0%	0%	0.7%	0%	0%	0.1%
その他 (車送迎、3つ以上の交通機関等)		2	7	3	17	11	15	8	11	15	89
		0.3%	0.8%	0.7%	3.3%	2.4%	19.2%	5.9%	12.1%	9.7%	2.7%
合計		588	834	444	516	466	78	136	91	155	3,308

(2) 通学費用別生徒数と割合

R 7. 5. 1 学校基本調査

費用 \ 学校名	宇治山田	伊勢	伊勢工業	宇治山田 商業	明野	南伊勢 度会校舎	鳥羽	志摩	水産	合計	積み上げ
不要	258	485	242	184	152	48	33	24	76	1,502	1,502
	43.9%	58.2%	54.5%	35.7%	32.6%	61.5%	24.3%	26.4%	49.0%	45.4%	45.4%
3,000円以内	33	24	15	14	26	0	1	3	0	116	1,618
	5.6%	2.9%	3.4%	2.7%	5.6%	0%	0.7%	3.3%	0%	3.5%	48.9%
5,000円以内	126	131	68	92	153	4	15	37	0	626	2,244
	21.4%	15.7%	15.3%	17.8%	32.8%	5.1%	11.0%	40.7%	0%	18.9%	67.8%
7,000円以内	108	103	73	110	71	1	74	4	0	544	2,788
	18.4%	12.4%	16.4%	21.3%	15.2%	1.3%	54.4%	4.4%	0%	16.4%	84.3%
9,000円以内	15	22	7	23	16	4	5	1	3	96	2,884
	2.6%	2.6%	1.6%	4.5%	3.4%	5.1%	3.7%	1.1%	1.9%	2.9%	87.2%
11,000円以内	8	10	6	12	8	3	4	2	21	74	2,958
	1.4%	1.2%	1.4%	2.3%	1.7%	3.8%	2.9%	2.2%	13.5%	2.2%	89.4%
13,000円以内	17	23	19	22	10	6	3	7	6	113	3,071
	2.9%	2.8%	4.3%	4.3%	2.1%	7.7%	2.2%	7.7%	3.9%	3.4%	92.8%
15,000円以内	19	26	10	30	12	6	0	11	14	128	3,199
	3.2%	3.1%	2.3%	5.8%	2.6%	7.7%	0%	12.1%	9.0%	3.9%	96.7%
15,001円以上	4	10	4	29	18	6	1	2	35	109	3,308
	0.7%	1.2%	0.9%	5.6%	3.9%	7.7%	0.7%	2.2%	22.6%	3.3%	100%
合計	588	834	444	516	466	78	136	91	155	3,308	3,308

※ 通学費用は1か月あたりの費用

(3) 通学時間別生徒数と割合

R 7. 5. 1 学校基本調査

時間 \ 学校名	宇治山田	伊勢	伊勢工業	宇治山田 商業	明野	南伊勢 度会校舎	鳥羽	志摩	水産	合計	積み上げ
15分以内	50	183	103	74	53	24	19	15	47	568	568
	8.5%	21.9%	23.2%	14.3%	11.4%	30.8%	14.0%	16.5%	30.3%	17.2%	17.2%
30分以内	198	264	149	132	158	23	22	30	36	1,012	1,580
	33.7%	31.7%	33.6%	25.6%	33.9%	29.5%	16.2%	33.0%	23.2%	30.6%	47.8%
45分以内	135	171	60	86	100	16	21	28	10	627	2,207
	23.0%	20.5%	13.5%	16.7%	21.5%	20.5%	15.4%	30.8%	6.5%	19.0%	66.7%
60分以内	89	100	63	92	74	11	55	15	33	532	2,739
	15.1%	12.0%	14.2%	17.8%	15.9%	14.1%	40.4%	16.5%	21.3%	16.1%	82.8%
90分以内	88	100	60	118	69	1	19	3	12	470	3,209
	15.0%	12.0%	13.5%	22.9%	14.8%	1.3%	14.0%	3.3%	7.7%	14.2%	97.0%
120分以内	26	15	8	12	8	3	0	0	8	80	3,289
	4.4%	1.8%	1.8%	2.3%	1.7%	3.8%	0%	0%	5.2%	2.4%	99.4%
121分以上	2	1	1	2	4	0	0	0	9	19	3,308
	0.3%	0.1%	0.2%	0.4%	0.9%	0%	0%	0%	5.8%	0.6%	100%
合計	588	834	444	516	466	78	136	91	155	3,308	3,308

※ 通学時間は片道の所要時間

○学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（≒学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1学年 あたりの 学級数	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1学年 あたりの 学級数	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7学級の教科別教員数については、県内の8学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が1、2、3人で色分け

※社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を5人、公民科では1人を配置できる6人と、地歴3人、公民1人を配置できる4人で色分け

※理科は物理、化学、生物を専門とする教員が2人ずつ配置できる6人と、1人ずつの3人で色分け

※保健体育は学年あたりの人数が2人、1人で色分け

※芸術は音楽、美術、書道の教員が1人ずつ配置できる3人で色分け

※この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳（ツグ・フーズ）	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No. 19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

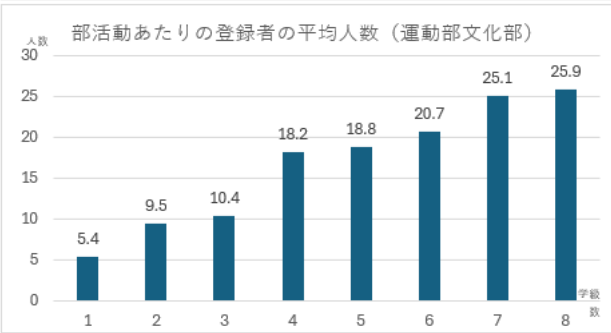
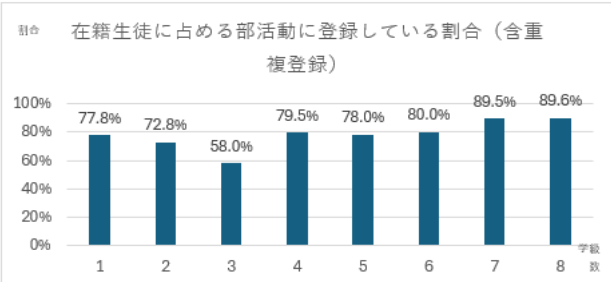
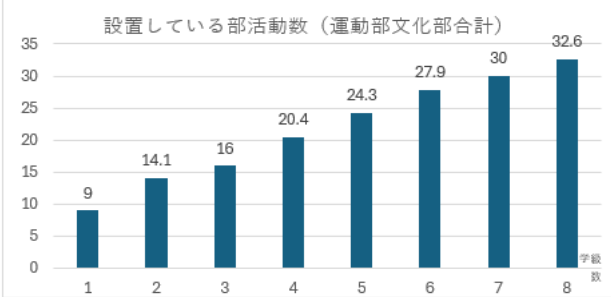
第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
20												
設置部活動の種類（～No. 20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳（ツグ・フーズ）	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No. 19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

○1学年あたりの学級数別の部活動の状況

（令和4年度三重県学校体育・部活動実態調査より）



令和 7 年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会 委員

N o	区分	所属等	名前
1	学識経験者	三重大学 教育学部 教授	田中 伸明
2	地域有識者	伊勢商工会議所 常務理事	中本 龍二
3		鳥羽商工会議所 専務理事	矢野 次男
4		志摩市商工会 常務理事	西尾 新
5		度会町商工会 事務局長	山本 雄紀
6	関係市町教育委員会 教育長	伊勢市教育委員会 教育長	小林 貴法
7		鳥羽市教育委員会 教育長	岩本 和也
8		志摩市教育委員会 教育長	舟戸 宏一
9		度会町教育委員会 教育長	中村 武弘
10		南伊勢町教育委員会 教育長	劔山 成実
11	県立学校長代表	県立伊勢工業高等学校 校長	奥山 敦弘
12	小中学校長代表	伊勢市立二見中学校 校長	中西 祐一
13		鳥羽市立鳥羽東中学校 校長	山下 幸也
14		志摩市立磯部中学校 校長	助田 宏樹
15		大紀町立大宮中学校 校長	作野 順也
16	小中学校 P T A 関係者	伊勢市 P T A 連合会 代表	西城 宏樹
17		鳥羽市 P T A 連合会 代表	東谷 俊介
18		志摩市 P T A 連合会 代表	西世古 真一
19		度会郡 P T A 連絡協議会 代表	山上 美穂
20	高等学校 P T A 関係者	南勢地区高等学校 P T A 連合会 代表	尾崎 佳奈
21	教職員代表	伊勢市立修道小学校 教諭	黒坂 泰之
22		大紀町立大宮中学校 教諭	糸川 明道
23		県立伊勢まなび高等学校 教諭	大西 孝明